

□議員名：吉永美子

### 1 安心安全なまちづくりについて

論点	阪神淡路大震災を教訓として、災害時においても市の業務が継続できるよう業務継続計画を策定すべきと考えるが、予定を聞く。
回答	計画の策定に着手をしているが、非常時の優先業務の選定や各部署の業務分担といった課題を抱えており、これら課題を一つ一つ解決する必要がある。業務継続計画は必要不可欠であると認識しており、なるべく早く策定できるよう努力する。

論点	昨年12月に消防団支援法が施行され報酬や出動手当の引き上げを自治体に求めているが、消防団の処遇改善見直しの考えを聞く。
回答	労苦を報いるための報酬と災害等に出動した場合の費用弁償として出動手当を支給している。国からの要請もあり、他都市において上げていくという動きが出ると思うので、そのあたりの動きを見ながら適切な報酬及び出動手当が支給されるよう改善を図っていく。

### 2 東日本大震災被災地への支援の現状と今後の予定について

論点	東日本大震災の被災地に派遣している職員から得た復興状況を、市のホームページや広報で広く知らせていくべきではないか。
回答	議員の思いは強く感じたし、確かに参考になるところも多いと思う。職員を派遣している宮城県山元町の状況を、本市が発信していくことも重要なことだと思うので検討したい。

### 3 民間力の活用について

論点	平成22年12月議会で提案した市営住宅への指定管理者制度導入は住民サービス向上と経費節減が期待できるが、検討状況を聞く。
回答	県内では平成21年度に下関市、平成23年度に宇部市、平成24年度に周南市が5年間の指定管理者制度を導入している。その経過を踏まえた上で導入に至るまでの経緯、導入前後における状況の比較、現在の問題点等を調査し、導入の是非も含め前向きに検討したい。

論点	文化会館の現館長の大きな実績は文化をより市民に近づけたことであると思うが、後継の公募をしないで文化事業の衰退はないのか。
回答	今回は公募せず、館長にふさわしい職員を充てるように考えている。4年間の民間館長の活躍が市の文化振興に大いに貢献したことは、今後の文化行政に一石を投じたと考えている。その意思を引き継ぎ、今後は更なる文化振興に取り組んでいきたい。

論点	給食共同調理場の運営について、これまで米飯を委託してきた事業者の取り扱いをどうするのか。
回答	業者としては極めて大きな問題で、自己炊飯にされては困るというようなことを聞いている。それを受けて、自己炊飯をこれから計画していくにあたり、十分に業者とも協議しながら進めていきたいと考えている。

#### 4 観光振興について

論点	文化と接点なくして観光振興はありえない。策定予定の観光振興ビジョンは、すでに策定済みの文化振興ビジョンとどう連携するのか。
回答	観光振興については文化面との連携を図ることが大切であることは十分認識しており、文化資産も含め、情報発信や観光ルートの設定、観光客の利便性等を考慮しながら、観光と文化が効果的に連動し、観光客や交流人口の増加につながるよう観光ビジョンを策定する。

論点	観光協会を市役所の外に進出させるべきと提言してきたが、観光課新設に伴い、観光協会の活動支援は強化されるのか。
回答	観光課が新設された場合でも、市として積極的に支援し、観光協会の自主的活動を支援していく。観光課と観光協会が本来業務を踏まえつつ、お互いに切磋琢磨し連携すべきことは連携し、観光客や交流人口を増加し、活気ある元気なまちづくりに努めていきたい。